



大日本國  
大清國  
通商章程



414  
A 677  
3

通商章程

第一款

修好條規ニ兩國ノ開港場 高民來往印

スル一勝手ニスヘキ旨ヲ書載ス因テ雙方

ニ定メタル諸港ヲ左ニ記ス

大日本ニテ通商ヲ許セル諸港

横濱 東海道武藏州神奈川縣ノ支配

箱館 北海道渡島州開拓使ノ支配

白岡洋港場ヲ掲  
出スルハ清洋ノ  
例ナリ

大正十一年四月  
海軍省印

大正官

大坂畿内摂津州大坂府、支配

神戸同上。兵庫縣、支配

新瀉北陸道越後州新瀉縣、支配

夷港同上。佐渡州佐渡縣、支配  
新瀉ニ附ス

長崎西海道肥前州長崎縣、支配

築地東海道武蔵州東京府、支配  
當時開市場ト称ス

大清ニテ通商ヲ許セル諸港

上海口江蘇松江府上海縣ニ属ス

鎮江口江蘇鎮江府丹徒縣ニ属ス

寧波口浙江寧波府鄞縣ニ属ス

九江口江西九江府德化縣ニ属ス

漢口鎮湖北漢陽府漢陽縣ニ属ス

天津口直隸天津府天津縣ニ属ス

牛莊口奉天府海城縣ニ属ス

芝罘口山東登州府福山縣ニ属ス

廣州口廣東廣州府南海縣ニ属ス

汕頭口 廣東潮州府潮陽縣ニ属ス

瓊州口 廣東瓊州府瓊山縣ニ属ス

福州口 福建福州府閩縣ニ属ス

厦門口 福建泉州府厦門廳ニ属ス

臺灣口 福建臺灣府臺灣縣ニ属ス

淡水口 福建臺灣府淡水廳ニ属ス

第二款

西國ノ官民ハ定メタル開港場ニ於テ地所

地所ヲ租賃スル事  
其法ハ都テ其  
開港地ノ成規ニ  
遵テ裁ナリ

ヲ借受ル丁ヲ許ス何レモ其地仕来リノ現

則ニ依テ取扱フベシ總テ地所ヲ借受ルニ

ハ地方官ニテ其地人家墓所等ニ障リナ

ヤ又特主納得ナルヤヲ取糾シ兵上ニテ公

平ニ地代ヲ極メ證書ヲ取替シ地方官之ニ

調印ス相對借リ押借リスベカラズ又内地

並ニ不開港場ハ地所ヲ借リ建物スル丁ヲ

許サズ不開港場ニテ地所ヲ借リ定メタル後

居宅ヲ作り店藏等ヲ建ルニハ地方官ヨリ  
時々見分スベシ

第三款

兩國ノ商船開港場ニ往来スルニハ自國ノ  
海關スハ地方役所ヨリ船ノ名並ニ積荷船  
頭水夫ノ姓名年齢住所ヲ書記シ印形ヲ押  
シタル船切手ヲ申請ケ開港場ノ理事官又  
ハ海關ニ持行キ勘合ヲ受クベシ船切手無

キ者ハ往来ヲ許サス萬一船切手破損紛失  
等ノ事アラハ海關ニ願立假り手形ヲ申請  
ケ歸國ノ上改テ願ヒ請クベシ

第四款

兩國ノ商船開港場ニ入津セハ海關ヨリ即  
時ニ見張ノ番人ヲ差出スベシ番人ハ其商  
船ニ乘リ居又ハ役船ニ乘リ居ルトモ勝手  
タルヘシ右入用ノ雜費ハ海關ヨリ相渡

ニ付商船ニ向ヒテ貪リ取ルコトヲ得ス担背  
クニ於テハ其高ヲ取上ケ控ノ通廢置スベ  
シ

第五款

兩國ノ商船開港場ニ入津セハ一日ノ内ヲ  
限り其船主ヨリ船切手積荷目録ヲ理事官  
ニ届出シ翌日理事官ヨリ海関ニ掛合ヒ且  
ツ其船ノ名並ニ積前積荷ヲ書付ニシテ一

後我國有ノ例  
從フ

同差送り海関ノ改ヲ受クヘシ若シ二日ノ

期限ヲ越ヘテ日曜日ヲ除キ入港ノ時刻ヨ  
リ十二時ヲ一日トス

海関ニ届ケザルモノハ大日本ニテハ一

毎ニ其船主ニ洋銀六十元ヲ罰シ大清ニテ

ハ一日毎ニ其船主ニ銀五十兩ヲ罰シ罰銀

ノ高貳百兩ヲ過ガヘカラズ又積荷目録ハ

巨細ニ書出スベシ若シ品高ヲ隠シ或ハ品

物ヲ偽ハリタル者アラバ大日本ニテハ隠

セシ者ニ其品税銀ノ高ヲ罰シ偽ワリシ者  
ニ洋銀百二十五元ヲ罰ス大清ニテハ何レ  
モ其品ヲ官ニ取上ケ船主ニ銀五百兩ヲ罰  
ス若シ目錄ニ書換アリテ其差出ニタル當  
日ニ之ヲ書キ改ムル者ハ搦ヒナシ其日ヲ  
越ヘテ改メサルハ大日本ニテハ洋銀十五  
元ヲ罰シ大清ニテハ一日毎ニ銀二十兩ヲ  
罰ス罰銀ノ高壹百兩ヲ過グベカラス若シ

其港ニ理事官居合セサル時船主ヨリ船切  
手續荷目錄ヲ直ニ海関ニ差出サハ規則ノ  
通り取計フベシ

第六款

兩國ノ商船入港メ其積荷ヲ書付ニ認メ海  
関ニ届出ルノ外船中自用品並ニ無税ノ品  
々ハ別ニ目錄ヲ認メ海関ニ差出シ免税ノ  
段ヲ受クベシ若シ之ヲ賣物ニ十廿ハ荷税

彼我國有例  
從フ

則ノ通税ヲ納ムヘシ若シ納税スベキ品ヲ  
魚税品ノ目錄ニ書込ニ税ヲ適レント謀ル  
者アラハ其品ヲ官ニ取上クベシ

第七款

海関ヘ理事官ノ掛合ヒ到来セシ上ハ速ニ  
荷揚ケ免状ヲ出スベシ若シ船主免状ヲ請  
ケズノ自儘ニ荷揚セバ大日本ニテハ揚々  
ル荷物ヲ官ニ取上ケ大清ニテハ銀五百兩

彼我國有ノ例  
従フ

ヲ罰シ揚タル荷物ヲ官ニ取上クベシ高船  
ノ荷揚ケ荷積ニスルニハ先ツ海関ノ免状  
ヲ申請クベシ背ク者ハ其荷物ヲ官ニ取上  
クベシ荷物ヲ船移ニスルニモ先ツ海関ヨ  
リ免状ヲ出セシ上積ミ移スヘシ背ク者ハ  
大日本ニテハ洋銀六十元ヲ罰シ大清ニテ  
ハ其荷物ヲ官ニ取上クベシ

第八款



兩國ノ商船税銀ヲ納ムルニハ輸入品ハ荷揚ケノ時輸出品ハ荷積ミノ時ニ納ムベシ納税相濟マバ海関ヨリ皆濟ノ手形ヲ以テ理事官之ヲ請取テ船主ニ船切手ヲ返シ其出港ヲ許スベシ

第九款

兩國ノ商民開港場ニ於テ荷物ヲ運フ為メ相對賃錢ヲ以テ人夫端船ヲ僱フテ其勝手

ニ任セ官ヨリ指圖スルナシ又何船何人ト限リ其株式ヲ立ルナシ萬一密商ヲナシ又ハ納税ヲ遁レントスル者アラハ海関ヨリ取調べ規則ニ依テ計フベシ

第十款

兩國ノ商人税ヲ拂フニハ荷物正味ノ高ク以テ相細メ其風袋ヲ引クベシ風袋ノ掛目ハ海關ニテ其荷物ノ内ヨリ一二包ヲ掛ケ

改メ其他ハ是ニ準ズベシ若シ濡損シタル  
荷物ニテ定割ノ通り納税シ難キ者ハ其價  
ヲ積モリ代百兩ニ付税銀五兩宛取立リベ  
シ

第十一款

大日本ノ商船荷物ヲ大清  
ノ開港場ニ輸入セバ大清  
ノ海關稅則ニ依テ納税ス

ベシ大清ノ商船荷物ヲ大  
日本ノ開港場ニ輸入セバ  
大日本ノ海關稅則ニ依テ  
納税スベシ兩國諸港ノ海  
關ニハ一定セシ寸量尺度  
並ニ銀位ノ見本アレバ雙  
方ノ商民何レモ其地ノ舊  
規ニ從テ取計ヒ聊異議

アルベカラズ

第十二款

兩國ノ貨物未タ税則ニ載セサル者  
ラバ海関ニテ時ノ相場ヲ以テ其價ヲ  
積モリ代百兩ニ付税銀五兩宛取立ツ  
ベシ若シ荷主海関ノ積リ直改ニテ賣  
ルイヲ欲セザレバ其意ニ任セ税銀ハ  
海關積モリ直改ノ通り拂ハシムベシ

彼我國有ノ例ニ從フ

第十三款

兩國開港場ノ停泊所並ニ荷物揚卸シ  
ノ場所ハ何レモ海關ヨリ程好キ處ヲ  
定ムベシ右ハ商人便利ノ為メナレバ  
税銀取立ノ節更ニ故障申立ハカラズ  
又官吏商民遊歴ノ儀ハ兩國何レモ任  
来リノ規則ニ依テ取計フベシ尤大清  
ニテ手形ヲ願受ルハ理事官之ヲ引

清洋ノ例ニ從フ

清ト別國トノ章程ニ  
ハ遊歴ノミナラス商業  
ヲ營ム為内地ニ至ル  
出来ルナリトニ遊歴  
ニモハ西ハヨリ  
一着ヲ遊ルニ成シ如何

清ト列國ト條約  
ハ付トアル此ノコトク  
ニテ我商人ト列國高

受ケ其人柄實體ナルヲ見極メ手形ヲ  
渡シ妄リニ事ヲ引出ス等ノ患ヲ免カ  
ルベシ

第十四款

大日本ノ高賣品ハ大清ノ開港場ニ輸  
入シ海關へ高稅拂濟シ上大清人ノ  
手ヨリ大清ノ内地へ運ビ入レ関所番  
所ノ稅銀ヲ拂ヒ賣捌ク一勝手タルハ

シ大日本人ハ大清ノ内地ニ運入スル  
一ラ許サズ又大清ノ高賣品ハ大日本  
ノ開港場ニ輸入シ海關へ高稅拂濟シ  
ノ上ハ大清人自ラ大日本ノ内地ニ運  
入スル一ラ許サズ背ク者ハ其品何レ  
モ官ニ取上ケ本人ハ理事官ニ引渡シ  
處置スベシ

第十五款

兩國ノ商民ハ雙方ノ開港場ニ於テ其  
地ノ產物並ニ別國ノ品物ヲ買取り海  
關へ届ケ改テ受ケ商稅拂濟ミノ上船  
積ミメ出港スルヲ許シ内地ニ赴キ  
品物ヲ買フヲ許サズ若シ内地ニ入  
リ自カラ品物ヲ買取ル者アラハ其品  
物ハ何レモ官ニ取上ケ本人ハ理事官  
ニ行渡シ處置スベシ以上二個條ハ兩

國何レモ開港場ヲ定メタレバ明カニ  
限リテ極メ置クナリ

第十六款

輸入ノ貨物稅濟ミノ上改テ外開港場  
へ運ビ賣捌カントスルニハ海關ヨリ  
其貨物元包ミノ儘ニテ解明ケ抜替へ  
等無之ヲ見届ケ稅濟ミノ手形ヲ渡シ  
外開港場ノ海關ニ持行キ改テ受ケ其

荷物手形ト相違ナケレバ之ヲ賣捌ク  
一ヲ許シ再度ノ税ヲ免レシムベシ萬  
一名目ヲ借テ抜替ヘ差込ミ等ノ惡事  
アラバ貨物ヲ官ニ取上グベシ

第十七款

大日本ノ高船大清ノ開港場ニ入津ノ  
納ムベキ噸税ハ都テ百五十噸以上ノ  
船ヨリ壹噸ニ付銀四錢宛ヲ納メ百五

十噸以下ハ壹噸ニ付銀壹錢宛ヲ納ム  
レバ海關ヨリ四箇月限ノ手形ヲ渡シ  
右四箇月ノ間ハ大清ノ開港場へ出入  
スルニ別ニ噸税ヲ納ムルヲナク四箇  
月ノ期限滿ツレバ猶又之ノ通り納ム  
ヘシ都テ入港ノ船未タ荷ヲ揚ケズ  
他所へ往カントスルモ二日ノ内ニ  
出港セバ噸税ヲ取立テズ二日ノ限ヲ

越ユレバ定ノ通り全ク納ムベシ此外  
別ニ雜費等ヲ出スナシ大清ノ商船  
大日本ノ開港場ニ入津セハ噸税ヲ拂  
ハズ只手敷料トメ入港ニ付十五元出  
港ニ付七元宛ヲ納ムベシ

第十八款

兩國ノ商船其船入用ノ諸品ヲ買調へ  
又ハ難ヲ避ル為メ暫時開港場ニ立寄

リ更ニ交易セザル者ハ其船ノ積荷ヲ  
海關ニ届ルニ及バズ若シ商賣ヲナサ  
バ定ノ通り届出税ヲ拂フベシ若シ船  
ヲ修覆スル為メ荷物ヲ陸揚藏入スル  
者ハ海關ニ届ケ改ノ上免状ヲ受ケテ  
陸揚スヘシ其船修覆相濟ミ元荷物ヲ  
積入レ出港スルニハ税ヲ納ムルニ及  
バズ若シ藏入セシ後其地ニテ賣拂ハ

不正品ハ何等ヲイ  
ルヤ此条解ニカクシ  
我条約中ニ如是ナ  
ナシ

ハ規則ノ通り税ヲ納ムベシ

第十九款

兩國ノ商船若シ不正ノ荷物ヲ積運フ  
者アラバ大日本ニテハ其荷ヲ官ニ取  
上ゲ大清ニテハ其荷ヲ官ニ取上ケ且  
ツ其船ヲ港外ニ逐出シ開港場ニ於テ  
貿易スルヲ許サズ

第二十款

兩國ノ軍艦開港場ヲ出入スルニハ海  
關ヘ届ケ改テ受ルヲナシ船中所用ノ  
諸品ハ何レモ無税タカヘシ若シ陸揚  
メ賣拂ハ、届ケ出規則ノ通り税ヲ拂  
フベシ

第二十一款

兩國開港場ニ於テ商人ノ荷物ヲ入レ  
置ク為メ官ヨリ倉庫ヲ造ラバ其倉庫

別ニ義解ヲ出ス

榮或議論アラカ  
然トモ妨ナシ

別ニ義解ヲ出ス

大正官



規則ハ彼我後前固  
有規則ヲ指テ此各  
約ニ別段掲ケズ

ノ規則ハ兩國ニテ各取極ムベシ尤荷  
物ヲ藏入イタシ置クニハ暫ク納税ヲ  
免ルシ賣捌ク時ニ至テ稅銀藏鋪凡全  
ク拂ハシムベシ若シ其荷物ヲ別港ニ運  
ビ往クニハ只藏鋪ヲ拂ヒ稅銀ヲ納ム  
ルニ及バズ

第二十二款

兩國ノ米麥糧食類ノ規則ニ從ヒラ別

手取ヲ以テ買取ト  
規則ハ我國ニ未ダ無  
クモ且行ルベカラハ  
ルモノナリ  
ニ從ヘルモノナリ

港ニ積廻スノ外河レモ海外ニ輸出  
スルヲ許サズ尤船中水夫船客等食  
用ニ備フル分ハ其見積リ高ヲ以テ海関へ  
届ケ手形ヲ受テ買取ルベシ

第二十三款

登州牛莊兩所ノ大萱同油滓ハ大日本ノ商  
船右港ヨリ積出スルヲ禁ス外開港場ニテ  
買取タル者ハ定則ニ從ヒ納税ノ上出港ヲ

清洋ノ列

清商我関港ニ於  
テ此三品ヲ賣買スルヲ  
カマフヌカ本文ノ旨意  
丈ケニテハ我商ノミラ  
イラクフヤナリ如何  
下其六款塩ニ全シ  
ナリ  
清洋ノ例

許スベシ

第二十四款

硝石硫黄白鉛ハ何レモ軍用品ニ付大清ノ  
官ヨリ直ニ注文スルカ又ハ日本ノ商人  
大清官ノ實正ナル注文書ヲ持タル者ナレ  
バ大清ノ関港場ニ輸入スレトテ許スベシ  
若シ密賣スルニ於テハ取押ヘテ品物ヲ没  
収シ法律ニ依テ處置スヘシ又大日本ノ商人

彼我固有ノ例

大清ノ関港場ニテ大清ノ硝石硫黄白鉛ヲ  
密買輸出スルトテ許サズ背ク者ハ品物ヲ  
官ニ取上ゲ法律ノ通處置スヘシ

第二十五款

凡禁制ノ品物火藥大小ノ砲小銃並  
ニ一切ノ軍器等及ヒ大清國北地ノ馬軍備  
ニ関係スル者ハ兩國ノ商人何レモ買賣出  
入スルトテ許サズ背ク者ハ品物ヲ官ニ取

上ケ各掟ノ通處置スベシ

第二十六款

兩國ノ銅錢ハ規則ニ從ヒ別港ニ積廻スノ  
外ハ何レモ海外ニ輸出スルコトヲ許サズ若  
シ商人密商スルコトヲ取押ヘテ品物ヲ  
没収スベシ又大清内地ノ鹽ハ大日本ノ積  
出スコトヲ許サズ大日本ノ鹽モ大清ニ積入  
レ賣捌クコトヲ許サズ背ク者ハ何レモ掟ニ

彼我國有ノ列

從ヒ罰スベシ

第二十七款

兩國ノ船不開港場ニ往テ密商スルコトヲ  
バ其地方官ヨリ取押ハ大日本ニテハ品物  
ヲ官ニ取上ケ洋銀一千元ヲ罰シ大清ニテ  
ハ船荷物トモ官ニ取上ゲベシ尤何レモ心  
得ノ為メ理事官ヘ掛合ヒ知ラスベシ

彼我國有ノ列

第二十八款

我従前ノ税目相  
異アイ如何  
別ニ義解ヲ出

兩國ノ税則ニ若シ輸入税則ノミヲ載セテ  
輸出税則ヲ載セザル者ハ其品ヲ輸出スル  
時都テ輸入税則ニ引合セ納税スベシ或ハ  
輸出税則ノミシ載セテ輸入税則ヲ載セザ  
ル者ハ其品ヲ輸入スル時都テ輸出税則ニ  
引合セ納税スベシ

第二十九款

兩國ノ商船難風ニ遇テ漂着セバ何レモ其

彼我ノ例ヲ折衷ス

地方官ニテ取扱ヒ開港場ノ理事官へ送り  
届ケ受取ラシムベシ若シ商船海上ニテ賊  
難ニ逢ヒシ時モ其地方官ヨリ手配ノ嚴ク  
召捕り盗ミ物ヲ取戻レ理事官ニ送届ケ本  
主へ返サシムベシ若シ盗人ヲ捕へ盗物ヲ  
取戻シ得ザル時ハ何レモ例ニ從テ捕手ヲ  
慶置スベシ但シ品物ハ償ハザルナリ

第三十款

彼我例ヲ折衷ス

兩國開港場ノ海關官員ニテ密商漏税ヲ防  
ク為ノ時ノ模様ヲ見計ヒ仕法ヲ立テ取行  
フ。アテハ兩國ノ商民何レモ是ニ違背ス  
バオラズ

第三十一款

兩國ノ商民開港場ニテ取行フ海關ノ規則  
若シ此後變通ノ事アラバ理事官ヨリ京師  
在留ノ大臣ヘ申立其時ノ掛合ニ談判ノ取

海關規則ハ何等ヲ  
イレニモ本條與同調立  
約ナキハ此條好條規モ通  
商章程モ十年中ハ遵守  
ス。キモノナクハ此條ノミテハ  
僅ニ税目ノ改革位ニ  
オモルサス。未歲及各國  
ノ余約ヲ改云セモ後モ兩  
國ノ間ハ依然此章程ヲ  
守ラサルヲ得ヌ。又都合ニ  
ハアラサルカイオン  
別ニ義解ヲ出ス

計フバシ

第三十二款

兩國今般議定セシ章程此後雙方改正セシ  
ト欲セバ此條約ヲ取替ハセシ年ヨリ向キ  
十年ヲ以テ限リトシ前廣ニ掛合ニ會議ノ  
改ムベシ

第三十三款

兩國今般定メタル通商章程並ニ海關規則

開港場 皇國ニテハ  
清國ニテ吾後令ハ未  
歲ニイタリテ是ニテ増  
ス。アテハイカ、ナレヤ此  
通商章程ハ海關ノ  
規則ニアラサレハナリ  
彼我固有ノ例

清洋ノ例

ハ修好條規ト同様ニ信守ノ變改ナカルベ  
シ其為ノ兩國

欽差全權大臣花押調印ノ即日ヨリ遵ヒ行  
ハシム

明治四年辛未七月廿九日花押

同治十年辛未七月廿九日花押

女正官

附註

附註

